

1. 冒頭

- 事務局等への謝意表明。

2. 食料安全保障の課題

- 昨年6月のF A Oハイレベル会合では、食料価格高騰対策についてコミットメントがなされたが、これ以降、経済危機の影響も相俟って、飢餓人口は10億人超に増大。
- 今次サミットでは、未だ危機的状況にある人々への支援に加え、農産物増大、飢餓削減に向けた中長期的な課題に取り組むべき。
- G8ラクイラ・サミットで合意された5原則は重要。我が国は、今後3年間で少なくとも30億ドルの農業関連支援にコミットしており、その実施において「マルチセクトラル」で「全員参加型」のアプローチをもって途上国主導のプロセスを支援。
- 農業及び食料安全保障に関するグローバル・パートナーシップの進捗（G P A F S）を歓迎。国連ハイレベル・タスクフォースの取組を評価。改革されたF A O食料安全保障委員会（C F S）が政策協調を促進することを期待。

3. 責任ある国際農業投資の促進

- 数ある課題の中でも、日本は責任ある国際農業投資の促進を重視。これは「農地争奪」の状況に対処するもの。
- 農業開発のためには、投資の増大が不可欠。しかし、大規模な土地取得をはじめ国際投資が意図せぬ負の影響を生むことも。必要なのは、負の影響を緩和しつつ、投資の増大によって投資受入国の農業開発を進め、受入国政府、現地の人々、投資家の3者の利益を調和し、最大化するような責任ある国際農業投資。
- 上記の考えの下、日本はF A O等とともに国連総会のフリンジでラウンドテーブルを開催。ここで出席者は、責任ある国際農業投資を進めるための原則及び国際枠組みの策定に向け協働していくことに合意。
- 本件へのグローバルな共同対応を実現するため日本は引き続き触媒としての役割を果たす。また我が国は途上国の投資関連情報の整備に協力。

4. 締めくくり

- F A O改革を完遂させる必要。多様な関係機関がそれぞれの専門性を活かして貢献する必要があり、その調整につきF A Oがより重要な役割を果たすことを期待。

（了）